



「脱腸(鼠径ヘルニア)のお話」

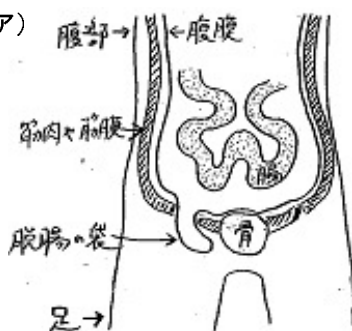
第二外科部長 阿部 福光

お腹と足の付け根の辺りが盛り上がったたり、膨らんだり、戻ったり、またはずっと膨らみっぱなしであったり、ちょっと痛い、などの症状や、排便や排尿の時に力んだときに、足の付け根が腫れてくるなどの症状があれば、脱腸を疑います。脱腸は出てくる場所によって、鼠径ヘルニア、大腿ヘルニアなどの名前がつきますが、下腹部の筋肉や筋膜の薄い場所から腹膜が嚢状に飛び出して、腸などが出てくる病気です。下の図①のようなイメージです。少し出ても、戻っている時には、症状も軽く、それほど心配ありませんが、脱腸の袋に腸が出っぱなしになって、寝ても、押しても戻らなくなると、大変！です。これを嵌頓と言います(図②)。脱腸の袋はパンパンに張り、痛みが出て、吐き気が出てきます。腸は袋の出口の部分でしめつけられ、だんだんと血流が悪くなり、腐ってきます。さらに時間がたつと、腸が破れ、腹膜炎を起こしてしまいます。腸閉塞にもなります。こうなると緊急手術が必要です。こんなふうになってしまう前に(脱腸の嵌頓をおこす前に)、早めに鼠径ヘルニアや大腿ヘルニアの手術を受けることはとても大事であると考えます。

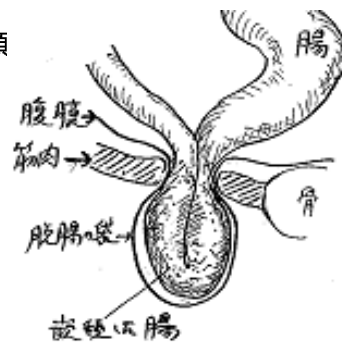
脱腸は薬では治せませんので、手術が第一選択です。手術時間は約40分です。以前の手術は袋を切って、脱腸の出口を縫合して、閉鎖していましたが、最近の手術はメッシュやプラグ(ポリプロピレン製)などを使用して、脱腸の出口を塞ぐ方法です。以前より再発も少なくなり、術後の痛みも軽くなっているようです。

もし、最近、足の付け根がちょっと腫れきたなあ〜と気付きましたら、一度かかりつけ医や近くの外科を受診して、ご相談してみてください。

図① 脱腸(鼠径ヘルニア)



図② ヘルニアの嵌頓



七夕コンサートが開催されました！

7月6日(水)に成章小学校による七夕コンサートが開催されました。当日は13時30分より、病院ホールにてリコーダーの演奏や合唱をおよそ120人の方々が楽しみました。



ふれあい看護体験

7月26日(火)当院で地元高校生6名が参加して開催されました。ふれあい看護体験は秋田県看護協会大館地区支部が主催。看護師を目指す高校生に動機付けと支援の機会を提供しようと毎年実施しているものです。当日は参加した高校生は2名ずつ、3班に分かれ、白衣に着替えた後、整形外科病棟にて足浴介助、血圧測定、シーツ交換などを体験しました。

